

1. 故稲富健一郎先生追悼の会が開催されました

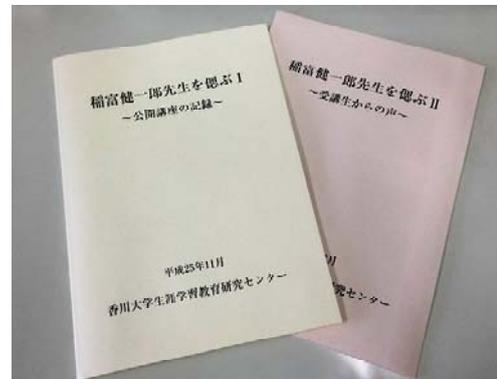
「香川大学公開講座の父」であった稲富健一郎先生が、平成25年7月9日にご逝去なさいました。

稲富先生は昭和60年度に公開講座「四大悲劇に見るシェイクスピアの人生観」を開講されて以来、実に28年間連続で公開講座を続けられ、ご専門の英文学、特にシェイクスピア文学についてお話し下さいました。

昨年11月25日には、ささやかながら当センター主催による「故稲富健一郎先生追悼の会」を執り行いました。会の終了後には、稲富先生の最も好きだった作品『リア王』(BBC版)を上映し、鑑賞いたしました。

また、稲富先生の功績をたたえ、『稲富健一郎先生を偲ぶⅠ～公開講座の記録～』『稲富健一郎先生を偲ぶⅡ～受講生からの声～』の2冊を作成しました。Ⅰでは、稲富先生の公開講座の記録を一覧にすると同時に、先生が生前当センター刊行物にお書きになられた公開講座への熱い思いなどをまとめました。Ⅱは歴代受講生のみなさまに稲富先生との思い出について書いて頂きました。

稲富先生のご冥福をお祈り申し上げます。



2. サテライト公開セミナーの開催報告

野村證券株式会社のご厚意で毎年開催させていただいている金融セミナー「基礎から学ぶマネー講座」(平成26年2月18日～3月18日)を、25年度は坂出サテライトオフィスを会場に実施しました。これまで生涯学習教育研究センター講義室を使って実施してきましたが、新たな受講者獲得とサテライトオフィスの活用もねらいに掲げました。坂出市教育委員会生涯学習課の強力なバックアップのお蔭もあり、お申し込みは50名



に達し、セミナーは成功裏に終わりました。昨年度より、講座最終回はワークショップ形式で行われ、5人グループにファシリテーター1名がつき、懇切丁寧にご指導くださいました。

26年度も今年度同様に6月2日(月)から隔週計3回の講座を、会場を丸亀市生涯学習センターで実施することとなっています。本セミナーはグローバル社会を「金融」という切り口で学ぶ、教養セミナーです。世界経済を学びながら、足下の資産管理を考える、グローバルな学習となっています。お金にまわりついている「金欲」「金儲け」の負のイメージから解放されるよい講座です。

(文責:清國祐二)

3. 香大生のラジオ番組が今年もはじまります！

昨年度、瀬戸内国際芸術祭香川大学プロジェクトの一環としてFM高松コミュニティ放送(FM815)にて放送したラジオ番組「香大生presents Art Time Junction」が、今年度リニューアルして再開します。

今年のテーマは「未来見学」。香大生が未来について熱く語り合います。放送は、2014年5月～2015年2月までの第1水曜日22:00～22:30(再放送は同じ週の土曜日15:30～16:00)です。Facebookでも情報発信していますので、「Art Time Junction」でぜひ検索してみてください。

乞う、ご期待！

(文責:山本珠美)

4. 海外視察報告:イギリスにおける学校と地域等の連携(3)

2012年10月に国立行政法人教員研修センターが主催する「教育課題研修指導者海外派遣プログラム」にシニアアドバイザーとして参加する機会を得ました。そこで得られた知見をもとに、イギリスの学校レポート第三弾をお届けします。

今回はロンドンの郊外(アウターロンドン南西部)リッチモンドにあるハンプトンヒル・ジュニアスクールです。昔から高級住宅街として知られるリッチモンドですが、学校もその閑静な住宅地の中心に位置します。この学校のジャーマン校長は在職25年になる、とても有能な管理職です。学校では、児童の個性を最大限に伸ばすために、さまざまな教育の仕組みや特別なケアが行なわれていて、イギリスの全国学校評価機関(Ofsted)の評価では、ほぼ全ての項目で「傑出している(outstanding)」を獲得しているほどです。

授業を参観させてもらいましたが、教室での授業はイギリスでごく一般的に見られるスタイルであり、比較的短時間で行われる一斉授業とその後に行われるグループ別の授業でした。2人ないし3人の先生がグループを回り、学習の進捗を確認しつつ、適宜指導する方法をとっていました。

さらに、教室外の通路には長机が置かれており、保護者や地域住民のボランティアによる補充学習が個別に行われていました。ボランティアは教頭等が面接をするなど人柄等に触れて確認を得てから、校長が許可する形式をとっているようです。補充学習だけでなく、芸術活動等の専門的指導も校内で行われています。私たちが訪問しているときにはトランペットの先生が学校を訪れており、順番に児童の指導にあたっていました。前者は無料ですが、後者は習い事と同じであるため有料となっています。不思議なことに、どちらも児童の所属するクラスでは授業が行われていたのに日本人としては違和感を覚えたが、ひとまず現状を受け止めておくことにしました。発達障がいの子どもについては今や学校内外での理解がかなり浸透してきたといっよいでしょう。この学校でも、集中力や注意力に欠ける児童を特別教室にて非常勤の先生が上手に教えていました。

これ以外にも、児童会委員や環境大使等の役割を効果的に与え、学校外の地域住民とふれ合える場面を設けていました。放課後の課外活動も地域の協力を得て、20程度の多彩な活動がラインアップされていました。

さて、ジャーマン校長の才覚はファンドレイジングにも現れています。ファンドレイジングとは外部資金の確保を意味します。ごく普通の確保の方法は、保護者のバザー収益金でしょうが、これだけの金額では到底足りません。保護者や地域住民に呼びかけて寄付を募ってもいりますが、大きな額を集めるには至りません。校舎の増築等ハード整備を行おうとすると、かなりの金額を要します。そこでジャーマン校長は、スポーツのプロ選手から関連グッズを無料で譲り受け、ネットオークションにかけてその収益を学校に寄贈しているのです。この豊かな発想と実行力があってこそ、待機児童が300人を超える人気のある学校として確固たる地位を築いたのでしょう。

(文責:清國祐二)



【写真1:リッチモンドの位置】



【写真2:ジャーマン校長】



【写真3:通常の授業風景】



【写真4:補充学習の様子】

センター雑感

新学期がはじまって1ヶ月経ちました。今年度の公開講座もいよいよはじまります。当センターにとっても、新しい出会いの時期です。受講生の皆様に有意義な学びの時間をご提供できるよう、センター一同頑張っております。(山本)

バックナンバーは下記のWebサイトに掲載されています。是非ご覧ください。

Tel. 087-832-1273 Fax. 087-832-1275 URL. <http://www.kagawa-u.ac.jp/lifelong/> Email. syogse@ao.kagawa-u.ac.jp